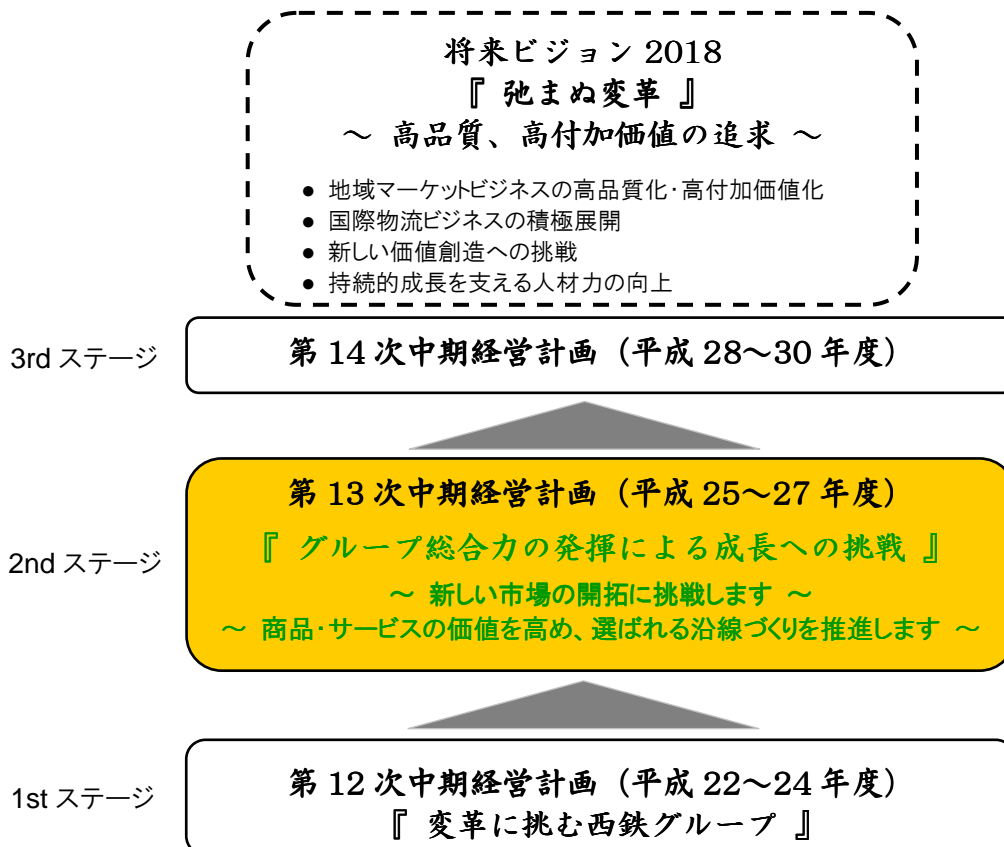


<平成 25 年 3 月 22 日>

## グループビジョン『グループ総合力の発揮による成長への挑戦』 西鉄グループ 第13次中期経営計画

- 西鉄グループでは、平成 25 年度を初年度とする第 13 次中期経営計画(平成 25 年～27 年度、以下「今中計」)を策定いたしました。
- 当社グループを取り巻く経営環境は、軽油価格や電力料金など事業を運営する上で不可欠なコストの増大や、消費税率の引き上げなど、厳しい環境が継続すると予想されます。
- 国際物流ビジネスでは、新興国を中心に成長が見込まれる市場への積極的な進出が、また交通事業や都市開発事業などといった地域マーケットビジネスにおいては、生産年齢人口の減少や高齢化、生活者の価値観の変化など社会構造の変化への迅速な対応が重要な課題であると認識しております。
- これらの認識のもと今中計では、グループビジョンを「グループ総合力の発揮による成長への挑戦」と掲げました。グループで持つノウハウやネットワークなどの経営資源を活用し、新たな事業価値を創造することで収益源を開拓するとともに、提供している商品やサービス、事業エリアの価値向上につながる施策を実施することで収益の基盤を強化し、お客さまに選ばれ続ける企業集団を目指します。
- 今中計は、平成 20 年に策定した“将来ビジョン 2018”の実現に向けた 2nd ステージという位置づけになります。1st ステージ(12 次中計)で構築した事業基盤をベースに、グループの強みを活かし、総合力を発揮することで成長に向け挑戦を重ねてまいります。

### ■ 第 13 次中計の位置づけ



## 1.新たな収益源の開拓

### (1)国際物流ビジネスの拡大

世界 24 ヶ国、88 都市で展開している国際物流ビジネスでは、アジアや欧州などで積極的に拠点を新設しネットワークの拡大をはかります。また、あらゆる物流ニーズにお応えできる総合ロジスティクスプロバイダー化を推進するため、海運やロジスティクス事業の強化にも取り組み、平成 24 年度対比約 20%超の収益規模拡大を目指します。

- 営業拠点の拡大
  - ・ 海外現地法人の設立(ブラジル、オーストラリア、フランス、イタリア)
  - ・ 支店や駐在事務所の拡大
- 海運事業、ロジスティクス事業の強化
- 世界五極体制構築による営業・管理体制の強化

### (2)自社ノウハウ活用による業態や事業エリアの拡大

様々な事業を営む中で培ったノウハウを活用し、既存事業の裾野拡大や域外展開をはかり、新たな需要を開拓します。

- マンション事業の拡大
  - ・ マンションのリノベーション事業、建替え事業の拡大
  - ・ 分譲マンションの首都圏エリアへの進出
  - ・ シニアマンションの拡大
- ソラリア西鉄ホテルの新規出店推進

### (3)新規事業の開発

アジア、環境、社会構造の変化への対応を切り口とした新規事業を開発し、新しい収益源の獲得に取り組みます。

- 生活支援サービス事業の展開
- 住替え事業の展開
- アジアでの新規事業、環境関連事業、農業、PFI 事業への挑戦

## 2.強固な収益基盤の確立

### (1)天神エリアのプレゼンスアップに向けた取り組み推進

ソラリアプラザビルやソラリアターミナルビルなどソラリア街区全体の大規模改造に着手し、重要な事業基盤である天神地区の魅力をさらに高めます。

また、天神明治通り地区の将来の大規模再開発に向け、「天神明治通り街づくり協議会」の取り組みを推進してまいります。

- ソラリア街区(ソラリアプラザビル・ソリアステージビル・ソラリアターミナルビル)の一体的改造の推進
  - ・ ソラリアプラザビルの大規模改造
  - ・ 福岡(天神)駅や天神バスセンター、商業部分を含めたソラリアターミナルビル・ソリアステージビルの改造検討
  - ・ ソリアステージビル全館リニューアルの実施
- 「We Love 天神協議会」や地域と連携したまちづくりの推進
- 「天神明治通り街づくり協議会」による取り組みの推進

## (2) 住みよいまちづくりの推進

沿線の生産年齢人口の減少や高齢化など、地域マーケットを取り巻く環境の変化に柔軟に対応するため、沿線開発や住環境の整備に取り組み、既存事業の収益基盤強化をはかります。

- 沿線における再開発の推進
  - ・ 駅周辺再開発の検討・推進(二日市、柳川 など)
  - ・ 大型複合開発の推進(地行)
- 住宅開発の推進
  - ・ 分譲マンション、戸建住宅の継続的開発
  - ・ 賃貸マンションの開発(薬院、地行、高宮)
- 新しい郊外型沿線開発モデルの実現(三国が丘)

## (3) 交通サービスの利便性向上

バスや鉄道のサービスを充実させ、使いやすい交通サービスを提供します。また高速バスの新制度移行をチャンスと捉え、新たなサービスの導入を進めます。

- 鉄道駅の改築と駅周辺の整備
  - ・ 柳川駅、三国が丘駅
- 路線バスのサービス向上策の実施
  - ・ 地域、自治体との連携強化
  - ・ わかりやすい路線編成
  - ・ ITを活用したサービス向上策の実施
- 高速バス制度変更に伴う新たな需要の取り込み
  - ・ 需要に応じた運賃制度の導入
  - ・ 高速バス予約システムの刷新
  - ・ 新路線の検討

## (4) スーパーマーケット事業の体質強化

高齢者や働く女性の増加、世帯規模の縮小などともなう生活必需品に対する消費者の志向やニーズの変化に対応して、競争力強化に向けた事業の構造改革に取り組みます。

- スクラップ&ビルドの推進
- 販売管理費の圧縮
- 生鮮・惣菜部門の強化、地域ニーズを捉えたサービス向上策の実施

## (5) ICカード「nimoca」のエリア拡大に向けた取り組み

全国相互利用が開始となるICカード「nimoca」について、さらなる加盟店の拡大やカードの魅力を高める取り組みを進めます。

- 天神地区、西鉄バス・電車の沿線における加盟店拡大策の実施
- 九州内交通事業者への導入の働きかけ
- 「スターnimoca」の浸透促進、ならびに加盟店での利用拡大策の実施

## (6) インバウンドの取り組み強化

アジアなど海外からの福岡への来街を促進する取り組みを強化し、インバウンドニーズを取り込みます。

- 韓国でのバスフリー乗車券の販売強化
- バスやホテルなどグループ連携による海外での営業強化

### 3.グループ総合力発揮のための体制整備

グループ事業の再編や管理部門のスリム化など、組織力の強化を目的とした体制整備を推進します。

- (1) グループ事業の再編
- (2) 一般管理部門のスリム化
- (3) ブランド戦略・広報戦略の構築

### 4.CSR 経営を文化とする企業風土の定着

安全やリスクに対する取り組みや環境マネジメントなどCSRに対する取り組みが、西鉄グループ全体の企業風土として定着するよう、継続して活動を推進します。

- (1) 安全・リスクマネジメントの継続的实施
- (2) 地域・社会との共生、CS の向上
- (3) 環境マネジメントの取り組み推進

## ■ 数値計画

	平成 24 年度 (見込)		平成 27 年度 (計画)
営業利益	165 億円	➔	180 億円
ROA	4.0%		4.2%
ROE	7.7%		7.5%

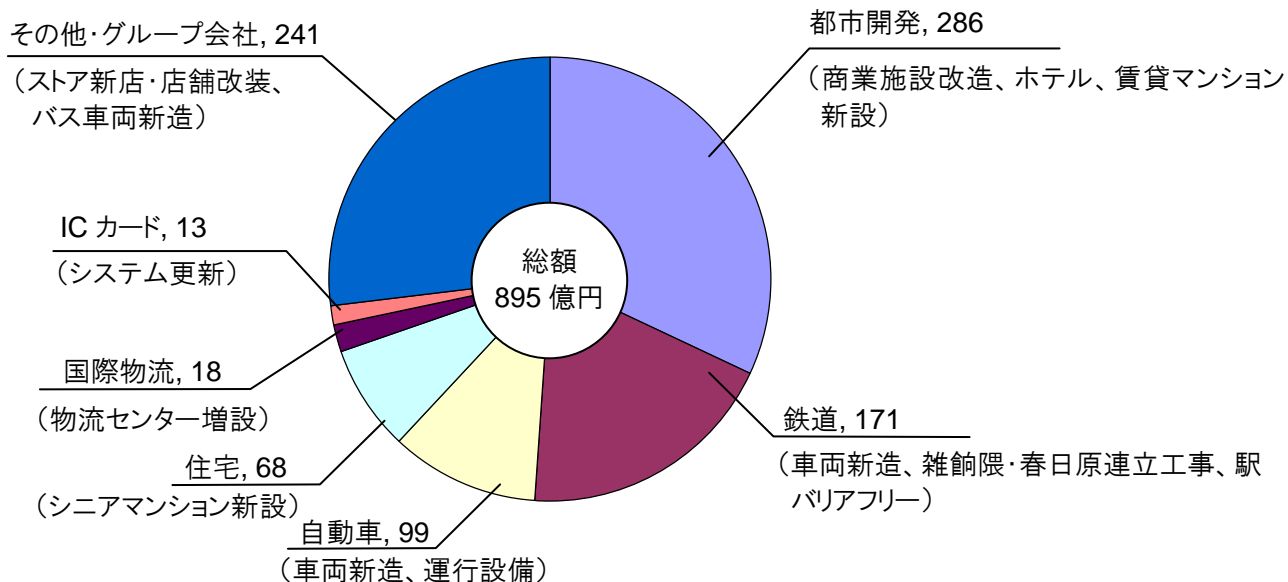
- (注) 1. 平成 24 年度(見込)は、平成 25 年 3 月期第 2 四半期決算時点公表数値  
2. ROA=総資産営業利益率  
3. ROE=株主資本当期純利益率  
4. 株主資本および総資産から、その他有価証券の時価評価による影響額を除いて算出しています  
5. 総資産から鉄道の受託工事前受金相当額を除いて算出しています

## ■ 設備投資計画

H25 年度 (計画)	H26 年度 (計画)	H27 年度 (計画)	3 ヵ年 合計
321 億円	299 億円	276 億円	895 億円

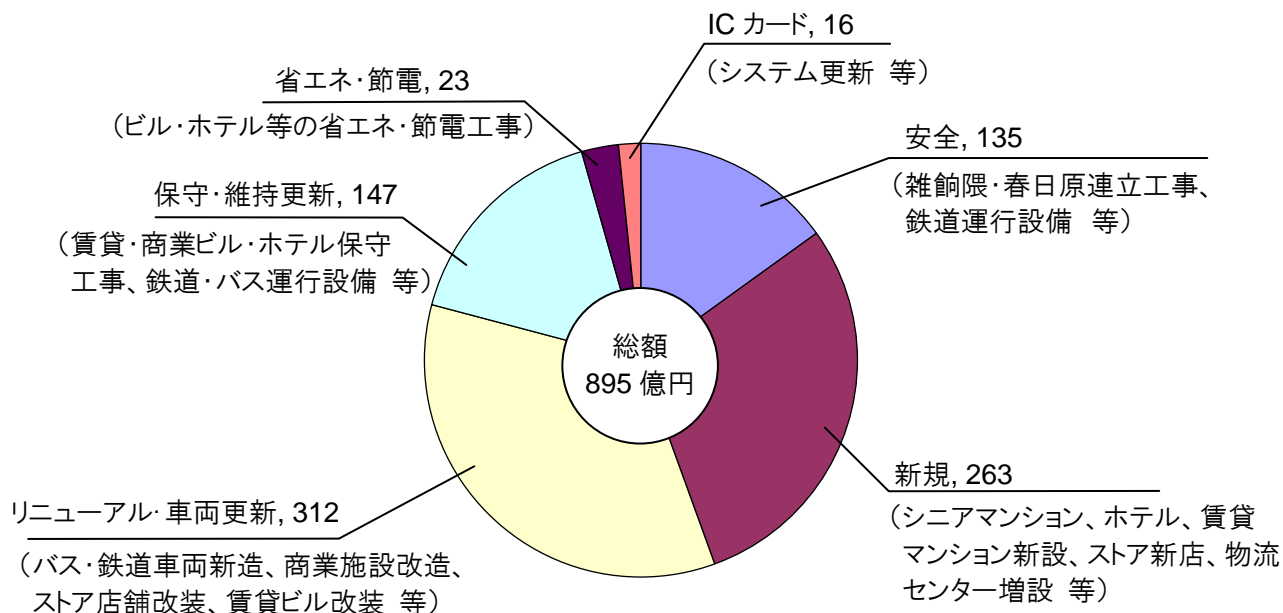
### 【部門・会社別内訳】

(単位:億円)



### 【投資種別内訳】

(単位:億円)



この件に関するお問い合わせは、西鉄お客さまセンター(TEL0570-00-1010)まで